

2024年度 第18回 総会を迎えて

— 今年度の活動方針と事業計画 —

2024年も半ば、6月を迎え総会の時期となりました。私たちNPO法人シニアライフセラピー研究所は地域福祉の向上を目指して、ここ鶴沼を中心にさまざまな活動をしています。皆がお互い地域で幸せに過ごしていけるよう、今年度も皆様と共に歩を進めていきたいと思ひます。



ふるさと納税 返礼品の拡充を図ります

天然酵母・国産小麦。ほかにもシンプルで良い素材だけを使った亀吉のパンは、子どもからご年配の方まで安心して口にすることができます。ここパン遊房亀吉は障害者就労継続支援事業所で、障がいを持つ方々がパンを作っています。藤沢市の返礼品としてさとふるではパン部門ランキングNo.1。2023年には2,680万円の寄付金を藤沢市に集めました。ここでは、障がいを持つ方はお世話をされたり支援されるだけの存在ではなく、社会に貢献している方々です。私たちは亀吉のパンをさらに多くの方々に味わってもらい、そして喜んでいただきたいと、現在の返礼品の受注制限を外しました。また、これまでセットとしていた定番の厳選丸パンやバトル類だけでなく、続々と登場している新シリーズのパンもお届けできるよう、セットの種類も増やしていきたいと思ひます。



介護保険からの脱却を目指して



当法人では以前からのビジョンとして介護保険からの脱却を掲げています。10年、20年先を見越して、給付に頼らない運営を目指して介護保険事業を地域住民活動事業に転換していく流れをつくってきています。いずれは新型の自治会として永続していくことを描いているものですが、施設や事業所としてではなく、「亀吉さん」という地域のお店のよう存在となるようにしてきました。介護保険制度にとらわれないかたちでの利用ができるよう、2024年度には脱却に向けてトライアルを進めていきます。



セーフティネット住宅を増やしていきます

セーフティネット住宅とは、住まい探しが難しい事情を抱える方向けの賃貸住宅で、国土交通省の「住宅セーフティネット制度」に基づいて登録されるものです。亀吉では本鶴沼に1件、セーフティネット住宅として登録されているアパートがありますが、さらに増やしていきたいと考えています。物件をお持ちの方！アパートを売りたいという方、自分の物件を社会貢献のために使ってほしいというオーナーの方！物件を募集しています。ぜひお声がけください。入居後の見守りも私たちが行っています。



就労継続支援B型事業所の新設を進めます



亀吉ではパン遊房 亀吉（就労継続支援B型）と、福祉コミュニティカフェ 亀吉（就労継続支援B型と就労移行支援）があり、パンやお菓子、お弁当の製造や販売をはじめとしてさまざまな仕事の場を提供しています。平均工賃は、2022年度の調査によると神奈川県内のB型事業所でパン遊房亀吉が8位、福祉コミュニティカフェ亀吉が24位で、高い順位をキープ。これは、皆が忙しく働いているということでもあります。当法人ではもう少しゆっくり働けるB型事業所の必要性を考えており、新たな就労継続支援B型の立ち上げを計画しています。現在、物件を探しています。ご存知の方、ぜひ物件をご紹介ください。



住民活動・子ども会の支援などで顔をつなげます

藤沢市はここ数年、人口の増加が続いています。特に鶴沼地域は他方から新しく引っ越して来られる方が多いのですが、引っ越してきた方同士や、新しい住民と古くから住む住民同士が関わることはあまりありません。人は、知らない人には冷たいものですが、知っている人には優しい気持ちを持つことができます。

このようなつながりを増やし、福祉のまち鶴沼をめざすため、人と人の顔をつなげていきたいと考えています。見知った人同士、お店や道で出会った時お互いにあいさつや声をかけあい、おしゃべりをする。このような優しい気持ちを伴うつながりが増えていけばと思います。くげぬまつながり隊は、鶴沼を中心に福祉活動を通して地域の人と人をつなぐサークルです。もちつきや夏祭りなど季節のイベント、子ども食堂やパンづくり体験、親子教室、各種講座、コンサート。これらを通じて、新旧さまざまな住民同士”お互い知っている人”を増やしていくための機会をつくっています。当法人では場所の提供や事務局業務など、より活動がしやすくなるよう、このサークルを後方で支援しています。コロナ禍明け、以前よりも活動の盛り上がりがあればと願っているところです。住民の皆さまからのかけ声が上がると、引き続き支援していきます。



本人が希望を持って生きられる社会をめざして-認知症本人大使-



かながわオレンジ大使のもっちさん
(望月省吾さん)

本人による想いを
ドキュメンタリー動画で
ご覧ください →
(神奈川県公式)



認知症の方ご本人が思いを直接伝え、その人らしい活動を発信する「かながわオレンジ大使」(認知症本人大使)。神奈川県では、県民が当事者目線で認知症について理解していけるよう、さまざまな活動を進めています。持ち前の力や特技、前向きさ、技術、知恵、スキルなどを活かして活躍する姿や、目標を持って日々を工夫しながら過ごすところなど、本人が希望を持って生きていけるような社会のための発信をするものです。当法人は昨年度、かながわオレンジ大使のコーディネーターとして、大使の方々の講演会や座談会、イベント出席、企業との交流会などを調整し、活動を応援してきました。そして今年度も引き続き、調整役をつとめることになりました。昨年度はさまざまな媒体で広く本人の声を発信するお手伝いをしましたが、今年度はさらに盛り立てていきたいと思っています。また、オレンジ大使になってくださる方を探しています。かながわオレンジ大使の一人は、亀吉で音楽ボランティアとしても活躍する望月さん。ぜひ、望月さんのように当事者の声を伝えたいという認知症本人の方がいらっしゃいましたら、お声がけください。



台湾とのつながりを強化します～姉妹提携の締結～

今年初め、台湾からの視察団が当法人のデイサービスの取り組みを見たいと視察に来られました。病院を中心とした医療機関関係者の方々です。台湾政府の経済部に設立されている財団法人によるコーディネートで、日本の介護や医療動向、技術や制度、先進的な施設の取り組みなどをみるというものでした。それから続けて、その時の視察コーディネーターからの紹介により、また別の台湾の病院からの視察団が来られました。大変活発な質疑応答と、ランチをともにし歌やダンスで交流しました。そして今度は、こちらが台湾の施設を訪れ視察をさせていただくことになり、これを機にこのたび新たに同病院と姉妹提携を結ぶ予定となりました。

一度きりの視察・見学だけにとどまらず、このように持続的なつながりができたことは大変喜ばしく、交流はもちろん、情報のやり取りや意見交換、講演、事業の協力など相互のやり取りを通してお互い友好関係を築きつつ学び合うことになることと思われ、今後が楽しみです。

